

## 「名古屋・東海地区における機関リポジトリコミュニティ形成の支援」第1回研修会を開催

●附属図書館

附属図書館は、9月28日(金)、附属図書館多目的室において、「名古屋・東海地区における機関リポジトリコミュニティ形成の支援」第1回研修会を開催しました。

同研修会は、国立情報学研究所の「学術機関リポジトリ構築連携支援事業」の採択事業として、年度内に連続して3回の研修会を開催するものです。学術機関リポジトリと



研修会の様子

は、大学や研究機関等の知的生産物を保存・発信することを目的としたインターネット上の電子書庫のことで、東海地区の国公私立大学等の他、近畿や北陸地区から、大学の機関リポジトリの担当者や機関リポジトリの構築を検討している機関の職員ら計21機関33名の参加がありました。

初めに、昨年度同支援事業を実施した近畿地区から招いた大阪大学附属図書館の土出郁子氏が、「機関リポジトリの意義」と題した講演を行い、オープンアクセスや収集と発信を担うリポジトリの重要性を強調しました。続いて事例報告が行われ、関西福祉大学の「小規模大学でのリポジトリ解説：JAIRO Cloud を利用して」と、相山女学園大学の「Sugiyama 機関リポジトリの過去・現在・未来」の2つの事例が両大学の担当者より紹介されました。また、研修の終わりに設けた「なんでも質問大会」の時間には、活発な意見交換が行われ、相互に情報交換することができたようでした。

参加者へのアンケート調査では、2つの事例報告が特に参考になったという意見が多く、次回以降の研修会も盛況が期待されます。

## 展示会「歴史の時間」を開催

●附属図書館医学部分館

附属図書館医学部分館は、9月11日(火)から28日(金)までの間、展示会「歴史の時間－名古屋大学医学部・附属病院の歴史を遡って－」を開催しました。分館内にある医学部史料室の所蔵品の中から、書物、医療器具などが展示されました。

医学部史料室は、本学の源流である名古屋県仮医学校が



展示会の様子

設立された明治4年前後の史料を中心とし、東海地方の医学の歴史的発展過程、さらに広く医学・医療史に関係する古医書、歴史的医療器具、古写真、絵画等を所蔵しています。昨年度、所蔵品の一部を電子化し、「近代医学の黎明デジタルアーカイブ」としてインターネットで公開してからは、学外者による同室の利用も増えてきましたが、実物を見ることで、若い世代が医学に関心を持つ契機となり、また生涯学習への支援となることを期待し、今回の展示会を企画しました。

展示会では、医学校設置の2年後、初めて外国人教師として迎えられた故ヨングハンス氏の講義録、愛知医学校長であった故後藤新平氏の送別記念写真、明治中期の種痘用具、故奈良坂源一郎氏の人体解剖図の挿図帖とその使用例、官立名古屋医科大学の教授であった故桐原真一氏らにより完成された軟性胃鏡等15点を展示しました。

医学部及び同附属病院の歴史を辿るだけでなく、「解体新書」や、明治中期の医者が往診の際に弟子に持たせた薬籠などの関連資料の展示に、「より広く医学・医療の歴史に接することができた」と、小学生から高齢者までの多くの来館者から好評を得ました。